

匝高新聞

第3号
平成29年1月発行

制作
千葉県立匝瑛高等学校
仕事を知ろう～教職編～

編集
2年 穴澤佑翔・加古恵美莉
1年 古山葵・熱田悠真
大越未来・小川千洋

仕事を知ろう～医療編～

〈受講者の声〉

初めは興味のある職業のお話だけを聞くつもりでしたが、いろいろな医療職のお話を聞いていくうちに、どこでも「チーム医療」という言葉が出てきて、そのたびごとにそれぞれのエキスパートが一人の患者の為に力を尽くしているということがよく分かりました。興味の無かったものから、考えてもいなかったようなものまで、幅広く様々な道（医療職）を知ることができ、選択肢を増やす機会にもなりました。

話を聞くだけでなく大学に向いて施設の見学だったり、実際の現場を体験することもできるため、まだ夢が決まっていないう人々や、とりあえず医療系の道へ進みたいという人にとっての講座だと思えます。

〈千葉科学大―臨床検査技師の講義・見学〉

自分の手で機械（CT）を操作して他人の体の内部を見る、という体験は初めてで、とても緊張しました。しかし普段は目に見えない体の中が超音波を通すだけで見えるようになる、というのは不思議でも興味深かったです。

臨床検査技師は医師や看護師と比べると少々マナーな職業だと思っていました。しかし、必要な知識は臓器のこと、細菌のこと、細胞のことなど幅広く、その量は医師並だということを知るととても驚きました。実際に私もこの講義を取って初めてその重要性を知りました。

そして、何よりも私が興味を持ったことは、検査技師は医師が診ただけでは見つけることのできない病気を見つけられる、ということ。もちろん責任は大きいけれど、自分が病気をみつけることで病気の患者さんが助けられる、と思うとやりがいのある仕事だとわかりました。

仕事を知ろう～看護編～

〈匝瑛市民病院での体験〉（血圧測定・配膳・訪問看護・デイスリーブス）

一日目は内科を体験しました。実際に患者さんの血圧を測ったり、食事介助の見学をしたりしました。血圧を測った患者さんは、話すことが不自由な人だったので痛いかな？と思っても本当にどうなのか分からなくて大変でした。

二日目は訪問看護に行きました。訪問看護では治療するだけではなく患者さんの悩みなどを聞くことも大事な事だなどと思いました。

一年間看護講座を受けて、色々な大学の話や、実際の現場での話を聞くことができ、また体験をすることもできて、とてもためになりました。



ワンポイント匝高紹介

〈二年生〉

センター試験まであと一年を切り、三年〇学期に突入しました。私がこの二年間で印象に残っているのは、競技大会や文化祭等の行事です。行事の当日にクラスで団結して盛り上がるのはもちろん、本番のための練習や準備で友達やクラスメイトと協力することを学ぶことができました。三年生では勉強をすることはもちろんですが、高校生活の最後の行事にも一生懸命取り組み、充実した高校生活を送っていききたいと思えます。

〈一年生〉

入学してから約一年が経過しました。そこで、一番大切だと感じたのは、勉強です。入学してすぐに中学生の時にもっと勉強しておけば良かったと感じました。高校に入ってから勉強は、中学生の時の勉強よりも難しくなりますが、中学生で学んだことが基礎なので、中学校の勉強が完璧だったら有利になると思います。

一年生の行事として十月に東京へ大学見学に行きます。班ごとに興味のある国立大学・私立大学を各一校ずつ見学します。平日に行われるので、オープンキャンパスと違った日常的な学校の雰囲気を感じる事ができ、とても貴重な体験になりました。

〈一年理数科〉

年に数回、理数科独自の行事があります。それを紹介します。私が一番印象に残ったのは、年に二回あるサイエンスツアーです。

一回目は、神奈川県箱根山に行き、山の地層を学べたり、宇宙航空研究開発機構（JAXA）で、人工衛星についてのお話を聞いたり、生命の星・地球博物館に行き、動物や化石、自然環境について詳しく見ながら楽しく学びました。一泊二日の泊りがけなので、勉強だけではなく、とっても楽しい行事でした。

二回目は、千葉科学館に行きました。身近なものの動き方や、目の錯覚など、どのように起こっているのか原因を知ったり、館長さんのロケットのスイングバイのお話をして聞いたり、たくさん科学について詳しく学びました。

